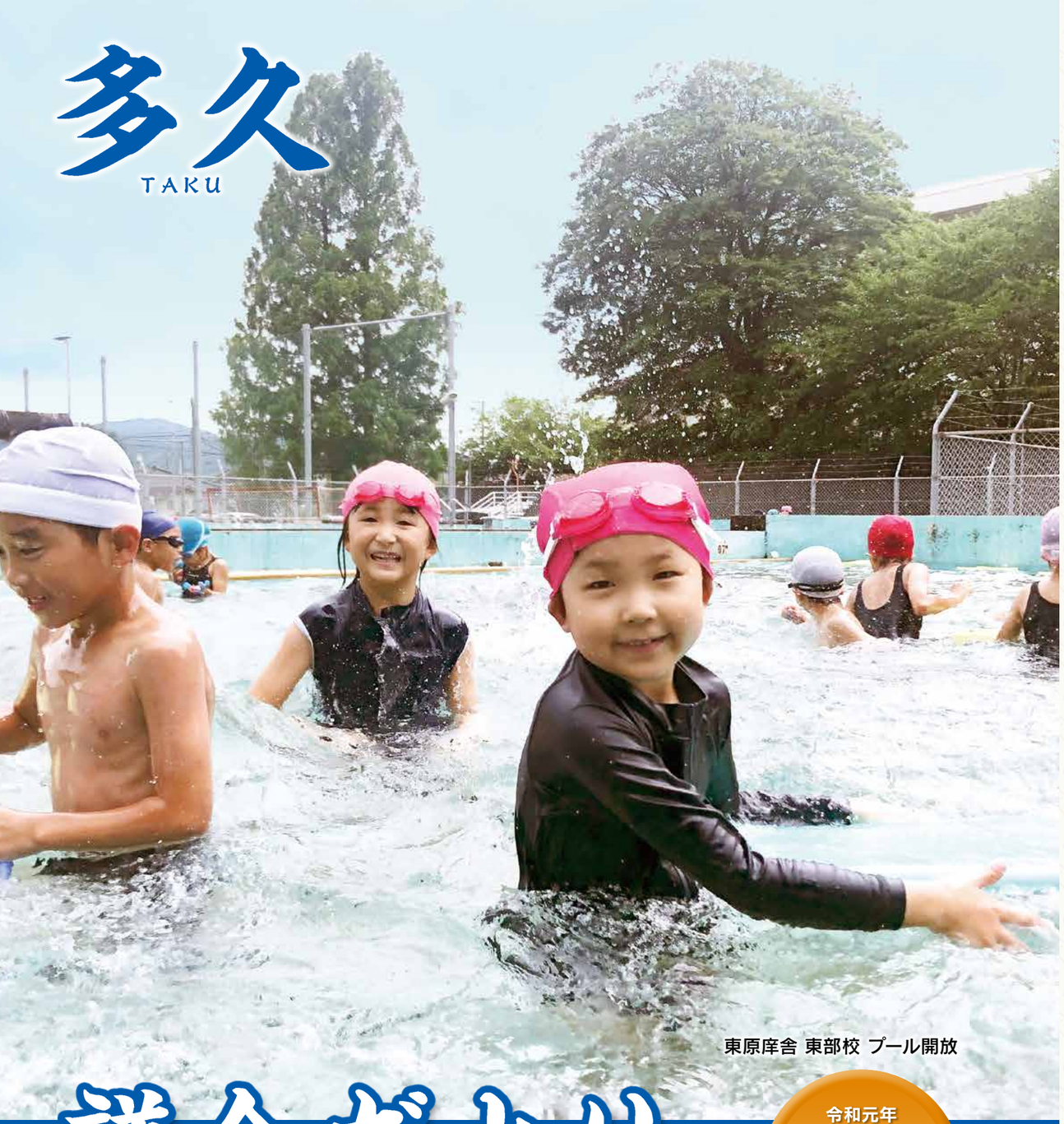
多久
TAKU



東原庠舎 東部校 プール開放

議会だより

令和元年
6月定例会
第41号

目 次
contents

主な議案 ▸▸ P2
議案質疑 ▸▸ P3
審査報告 ▸▸ P4
一般質問 ▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸ P5
まちで発見！飯盛 挺造 ▸▸▸ P10

QRコード読み取って
ホームページにアクセス！

～微量天秤の先駆者～

『飯盛 挺造（いいもり ていぞう）／ドクトル・フィロソフィー』

嘉永４年(1851年)８月24日 ～ 大正５年(1916年)３月６日

議会だより第39号に続き、多久出身で活躍した人物紹介の第2弾です。
今回は微量天秤の父、飯盛挺造を紹介します!

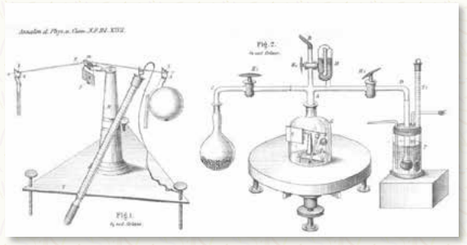
多久市で生まれ東原庠舎で学び、佐賀藩の藩医・池田玄泰からドイツ語の手ほどきを受けました。

20歳のとき上京し、外務省洋語学所に入学し、卒業後、ドイツ語教員心得として東京外国語学校に勤め、その後東京医学校(後の東京大学医学部)に勤務しました。

▲フライブルク大学に
提出した学位論文の表紙

その後、最初の研究「光線分極論」を発表、また『物理学』(ミュルレル原著)を翻訳出版し、当時唯一の和書の物理学教科書として医学、薬学関係を中心に、1920年代まで広く使用されました。

33歳のときドイツのフライブルク大学に留学し、エミール・ワールブルク教授の指導のもとで反射光を利用する真空式微量天秤を考案し、ガラスや他の物質に吸着される水分の量を測定する研究を行い、その論文によりドクトル・フィロソフィーの称号を授与されました。



▲飯盛が考案した微量天秤

▲東京女子高等師範学校
(現在のお茶の水女子大学)
卒業記念写真より(明治45年3月)

帰国後には、丹波敬三(薬学者)ら10名と共に、私立薬学校(現在の東京薬科大学)を創立、教育者として活動するとともに物理学の入門書も出版しました。

明治43年に東京女子高等師範学校の校長代理に就任しましたが、病気の再発があり、その65年の生涯を閉じました。

議会広報委員会
委員長――樺島永二郎　副委員長――古賀 公彦
委員――野北 悟　瀬川 雄二
香月 正則　鷲崎 義彦

発行／多久市議会　多久市北多久町大字小侍７番地１
TEL.0952-75-4828　FAX.0952-75-2110　E-mail:gikai@city.taku.lg.jp
編集／議会広報委員会　印刷／山口印刷株式会社

多久市議会定例会のインターネット動画配信をしています。
多久市議会のホームページにアクセスしてください。